

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4070300647		
法人名	有限会社 八起		
事業所名	グループホーム 新池		
所在地 (電話番号)	北九州市戸畑区新池3丁目3-19 (電話) 093-871-4341		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年9月30日	評価確定日	平成21年11月12日

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 1 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 6人, 非常勤 8人, 常勤換算	7,2 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1500 円	

### (4) 利用者の概要 (9月5日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	58 歳	最高	101 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 牧山中央病院・野田内科循環器科クリニック
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム新池は、運営者が営んでいた料亭を改築し、地域貢献という思いのもとに低料金で開設されており、5年目を迎えている。長年この地域の住民である運営者・管理者は、地域との根付いた関係を構築しており、散歩や買い物に出かける機会の多い入居者も近隣住民との顔なじみの関係がある。また職員(地域住民が多い)は近隣の独居高齢者を把握し声かけに立ち寄る等、地域と共に支えあう運営が行なわれている。リビングからは賑やかな会話が聞こえ、ホームで暮らす犬や猫の存在は、入居者や来訪者の顔を和ませ、また世話をすることで役割を見出し、日々の活力ともなっている。玄関には「お茶をどうぞ」という案内があり、地域の方々の来訪を歓迎しており、地域密着型サービスとしての役割の実践に努めているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で指摘のあった評価の活用について、自己評価作成にあたり職員全員で検討し取り組んでいる。また伝達研修の実施や、介護計画の見直し等に取り組みがみられる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	新しい管理者により職員全員の意見をまとめて、自己評価作成がなされている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期開催されている運営推進会議では、現状報告及び介護保険制度・人材育成・ボランティア等の議題にて話し合いが行われている。詳細な議事録が作成されており、各方面からの情報提供を受け、ボランティアや幼稚園児の来訪等により、入居者の社会性の確保へのアイデアを頂くなど、活発な意見交換の場となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	苦情受付窓口及び苦情解決責任者を重要事項説明書に明記している。家族とのコミュニケーションを大切にしており、意見や要望があった場合には迅速な対応に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	運営者の地元であり、近隣住民や自治会、消防団等との古くからの関係がある。入居者の方々と近隣住民との顔馴染みの関係があり、また職員(地域住民が多い)も地域の独居高齢者を把握し声かけ等が行われている。特別な機会づくりではなく、地域に溶け込んだ自然体での交流が育まれている。玄関には「お茶をどうぞ」という案内があり、地域の方々の来訪を歓迎している。

2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「障害を抱えていても、年老いていても、自分らしく暮らしてほしい。家庭的な環境を提供し、住み慣れた町でいつまでも暮らし続けられるよう私たちは、家族の一員として不自由な面を手助けすることに努めます。」という独自の理念を掲げている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	日々のケアの中で、理念に基づいたケアとなるよう運営者・管理者・職員により、確認しながら取り組んでいる。理念には「家族の一員として」という言葉があり、入居者・職員のその距離感の近さからは、理念の実践に努めていることを窺い知る事が出来る。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	運営者の地元であり、近隣住民や自治会、消防団等との古くからの関係がある。入居者の方々と近隣住民との顔馴染みの関係があり、また職員(地域住民が多い)も地域の独居高齢者を把握し声かけ等が行われている。特別な交流の機会づくりではなく、地域に溶け込んだ自然体での交流が育まれている。玄関には「お茶をどうぞ」という案内があり、地域の方々の来訪を歓迎している。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	評価結果をリビングに掲示しており、管理者・職員で話し合いながら課題についての取り組みを行なっている。前回の指摘事項であった自己評価作成については、新しい管理者の下、職員全員の意見を取り入れながら作成されている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	定期開催されている運営推進会議では、現状報告及び介護保険制度・人材育成・ボランティア等の議題にて話し合いが行われている。詳細な議事録が作成されており、各方面からの情報提供を受け、ボランティアや幼稚園児の来訪等により、入居者の社会性の確保へのアイデアを頂くなど、活発な意見交換の場となっている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

## グループホーム 新池

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	運営に関する困難事例や不明な点について、行政担当者に相談したり助言を得て、サービスの向上に活かしている。また介護相談員の受け入れを行なっている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、成年後見制度を活用している方もおり、管理者・職員は会議等において学ぶ機会を確保し、理解を深めている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	定期的に「新池だより」を発行し、行事の様子等を、入居者の方々の生き活きとした表情豊かな写真とともに紹介している。家族来訪時には、日々の暮らしの状況について報告を行なっている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	苦情受付窓口及び苦情解決責任者を重要事項説明書に明記している。家族とのコミュニケーションを大切にしており、意見や要望があった場合には迅速な対応に努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	職員の異動は行われていない。やむを得ず離職等が発生した場合でも、運営者・管理者・職員全員での馴染みの関係づくりが行なわれており、サポートできる体制がある。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行なっていない。やる気のある人や心の温かい人を重視して採用している。研修参加や資格取得、家庭の事情等に柔軟に対応し、勤務シフトの調整等が行われている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

## グループホーム 新池

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者の人権に関するビデオやマニュアルにより、学習の機会を確保している。高齢者虐待防止や身体拘束についても資料を配布し、職員の理解を深めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	柔軟な勤務調整が行なわれており、内外の研修への参加を促している。参加者は伝達研修を行い、情報の共有を図っている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	戸畑区内のグループホーム交流会に参加し、相互訪問や情報交換により、サービスの向上につながるよう取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	自宅訪問やホームの見学、体験利用を通じて馴染みの関係づくりが行なわれ、本人・家族が安心してサービスの開始ができるよう柔軟に支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	日々の暮らしの中で、入居者・職員が共に家事や楽しみごとを行い、同じ時間を共有することで支えあう関係を築いている。お互いに感謝するという関係性が伝わってくる。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

## グループホーム 新池

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	思いや意向の把握	入居者一人ひとりの言葉を傾聴し、意向を確認している。全ての希望や意向に対応できるわけではないが、本人本位に検討し、その実現の可能性を探っている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の意向を大切に、職員会議等にて本人本位での検討が行われ、個別性のある介護計画が作成されている。丁寧に詳細な内容が確認できるが、生活歴・生育歴等のアセスメントの充実により、認知症への多面的なアプローチを計画に取り入れていくことも検討して下さい。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	3ヶ月に1回、見直しを行なっている。状況の変化があった場合には介護経過表を変更し、現状に即した計画となるようその都度見直している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	運営者の住居が敷地内にあり、夜間の受診介助等、状況にあわせて柔軟な支援体制がある。入居者だけでなく地域への細やかな個別の対応が臨機応変に行なわれており、特筆すべき点である。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の希望するかかりつけ医との関係を大切にしている。運営者の地元であり、旧知の間柄にある医師との連携により、率直な意見交換や相談が出来る関係を健康管理に活かしている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム 新池

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	看取りに関する指針を示し、家族に同意を得ている。本人・家族の希望を大切にしながら、関係者による話し合いを重ねている。終末期に向けての体制づくりを課題として捉えており、医療との連携体制や家族の協力、職員の意欲や理解等、具体的に検討している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	日々の暮らしの中で入居者と正面から向き合い、本質的な入居者の尊厳を確保しながら対応することに努めている。個人情報等についても、取り扱いに配慮している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	食事や入浴等、ある程度の時間は決めているが、状況にあわせて柔軟な対応に努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	もともと料亭を営んでいたこともあり、品数も多く、盛り付け等にも工夫がなされている。味付けについては入居者の意見を参考にしながら、配膳や後片付け等に個々の力を活かした参加がある。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴を拒否する方もおり、タイミングや職員を変えてみたりと日々努力している。無理強いとせずに納得して入浴してもらうために、個別の取り組みが行なわれている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム 新池

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	朝早くホームの鍵を開ける方・花の水やりをする方・ゴミの分別をしてくれる方等、一人ひとりの力を発揮できるよう支援している。猫の世話や買い物付き添い等の役割を担う事で、生き活きと過ごしている入居者の姿があった。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	天候や体調等により、散歩や買い物、外食や理・美容院など、外出する機会が多い。個別支援にも柔軟に対応している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	朝6時に開錠することを日課としている入居者の方がおり、夜8時に施錠するまで、玄関を開放している。ホーム前は交通量の多い道路となっており、見守りの徹底等、安全面に最大の配慮を行なっている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回、定期的に避難訓練を行なっている。運営者・管理者・職員と地域住民が多く、地域の消防団とも顔なじみの関係があり心強い。敷地内に運営者の自宅があり、すぐに対応できる環境にある。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
1. 理念と共有					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食材は業者に委託しており、バランス等に配慮された献立が作成されており、食事・水分量を記録している。一人ひとりの状況にあわせて、医師とも相談しながら柔軟な支援が行われている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム 新池

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間には季節にあわせた飾り付けや行事の写真が飾られている。テレビの音量や室温、換気等に注意し、居心地良く過ごせるよう配慮している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	使い慣れた筆筒や椅子、仏壇等が思い思いに持ち込まれており、居心地のよさに配慮している。全室介護用ベットが設置されている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			